

横須賀市からの発表案件なし

■質疑応答

記者

米海軍横須賀基地のPFOSについて、市側の対応として新たな動きがあれば教えてください。

市長

これまでの経緯と現状をお話しさせていただければと思います。

8月29日の米側のサンプリングで、暫定目標値の約109倍ないし約172倍のPFOS等が検出されてから、約2ヶ月となります。

この状態を一刻も早く改善できるよう、フィルターの早期設置について様々な形で要請をしてみました。まもなく当初の設置・運用予定との説明のあった、11月1日となります。

市としては9月7日と10月12日の2回にわたり、周辺海域の水質の調査を実施しましたが、いずれも暫定目標値より十分低い値であるということを確認し、市民の皆さんにお知らせをしました。

今後、フィルターが設置・運用され、汚水処理施設から流れ出る水が基準値を下回っていることが、まず重要であると考えています。市民の安全・安心、そして漁業関係者の生業のためにも、フィルター設置後の排水施設内のサンプリング結果は非常に重要であると考えています。

これまでは、日本政府による環境補足協定に基づく、立ち入りを行い、日米政府による早期の原因究明と、再発防止を図るよう繰り返し求めてまいりましたが、横須賀市としてもフィルターの確認や、フィルター設置後の汚水処理施設内のサンプリング調査のために、立ち入るべきと判断をいたしましたので、国に申し入れることとしました。

本日の午後、これまで米側で実施したサンプリング結果や、国が9月30日に実施した周辺海域の海水の分析結果の報告のため、国の職員が来庁する予定のため、その際に事務方から、正式に口頭で申し入れる予定です。

この件については、今後も、フィルターの設置、サンプリング原因の究明とその対応、再発防止策と課題が山積していますが、排水処理施設の出口だけではなく、排水処理施設の入口からもPFOS等が検出されている事実を鑑み、基地の中で暮らす方々、働く方々の中にも、自分たちが使っている水は大丈夫なのかという不安を感じる方も少なくないのではないかと思います。

環境や人の健康に関わる問題は、市民だけでなく、当然のことながら、基地の中で暮らし、働く米軍関係者にとっても非常に重要な問題であると思います。

一刻も早く、原因究明を図り、この状況が改善できるよう、日米政府で協力してこの問題に取り組んでほしいと思います。

記者

午後、国の職員が来庁するという話について、もう1度、具体的にご説明ください。

市長特命参与

本日の午後、防衛省と環境省が国の調査結果および8月29日からの米軍のサンプリング結果を説明のために来庁する予定です。

記者

国ではなく、市が調査に入る意味はどのようなところにあるとお考えでしょうか。

市長

当然のことながら、基本的には国がやるべきだと私は考えています。

ただ、これまでの経緯を考えたときに、フィルターが設置された後、立ち会いをさせていただき、そのフィルター出口の水を、国、横須賀市それから米側、それぞれが取水し、それを検証したいという思いからです。

記者

自ら確かめないと信用できないということですか。

市長

信用できないということではなく、確認をした方がいいのではないかという思いがあります。

はじめに私が抗議を申し入れた時のように、米側が誠実かつ真摯に対応していただいていることが分からなかったため、良好な関係を持ち得るという意味でも是非、調査に入りたいという思いを国に対し、伝えたいと思います。

記者

周辺海域の海水の環境調査を行っているという話がありましたが、市民の方にお話を聞くと、水産物についても調査を実施してほしいという声もありますが、そのような声をどう受けとめていますか。

市長

そのような不安があることはよく理解しておりますが、その魚がどこから来ているのかということを考えることが、重要ではないかと思っています。

市の海洋調査において、基本的には環境省の基準を下回っており、そのような不安の方々については、環境省や厚労省など、国が一定の基準を示して調査すべきではないかと思っています。それは日本中いたるところに PFOS が存在すると理解しているからです。

しかし、風評被害を不安視しており、例えば、アメリカの原子力潜水艦が来た時に、体が曲がったハゼがいるという、明らかに現実とは異なる科学的ではない根拠の中で、様々な風評被害が流れたこともあるため、国や環境省が一定の基準を示していただくことに尽きるのではないかと考えています。

記者

基準がないからできないということでしょうか。

市長

いえ、海洋調査は行っています。

ただ、科学的知見が私たちにはないため、どのような場所でどういった調査を行うのかということ、国が一定の基準を示し、調査をすべきであると考えています。

また、もしもそのような声が大きくなるならば、当然、国に申し入れしなければならないと思っています。

記者

その声によっては、環境省等への申し入れについても検討していくということでしょうか。

市長

はい。しかし、PFOS 等は日本中さまざまところで検出されており、日本の海洋全般を調査しなければならないという問題にもなるため、どのような判断となるのかは分かりませんが、そのような不安が大きいのであれば、話をさせていただきたいと思っています。

記者

今後も続いていくかとは思いますが、市として、ある程度の一段落つける段階はどのようなタイミングだとお考えでしょうか。

市長

やはりフィルターの設置だと思います。そのフィルターを通して戻した水が、環境基準を満たす数値となった時点で、私は問題解決であると思っています。

もちろん、原因究明およびその後も水質検査を実施するという前提ではありますが、ひとまず、そこが終着点だと思います。

記者

改めて、市長としてこの PFOS 等の問題をどう受けとめているのか教えてください。

市長

これは基地を抱える自治体の首長として当たり前の話ですが、PFOS は、日本全国にあります。沖縄など、抱えている問題は各地で異なります。基地の中では、基地従業員や米軍の人たちが同じ生活圏で暮らしているということから、米軍も問題意識を持っていると思います。そのため、米軍と連携し、一刻も早く問題を解決していきたいと思っています。私は米軍も市民だと思っています。

記者

実際にフィルターはいつ設置されるのでしょうか。

市長

11月1日と聞いています。

記者

先日、11, 100ng/L と非常に高い値が検出されました。非常に高い値が検出されたことで、そのフィルターで完全に切り切れるのかという不安もあるかと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

市長

設置後、フィルターを通し、どのような数値になるかということを確認するとともに、当然ですが、その後の数値の推移を見守らなくてはならないと思っています。

記者

高すぎて切り切れないという不安はありますか。

市長

それはないと思います。少なくとも科学的な知見によると、すべて吸着できるという話はお聞きしています。

記者

PFOS 等が、5 月以前にも出ていた可能性もあるのかと思う方もいらっしゃると思います。かなり長い間、PFOS 等が漏れ出ていた可能性について、市長はどのように考えていますか。

市長

予断はできません。ただ、泡が出てきたのを視認し検査を行ったという経緯もあるため、それ以前はないと考えています。

記者

例えば、長い期間 PFOS が出ていたとすると、あの周辺にたまっている可能性もあるのかと思いますが、どのように思いますでしょうか。

市長

仮定の問題にはお答えできません。それは日本全国どこでもそうなる可能性はあるわけなので、その仮定の問題に対してのコメントは控えさせていただきたいと思います。

記者

市長が立ち入り調査に同行するようなことはありますか。

市長

ありません。

記者

国際観艦式が 11 月に開催されるということで、各国が続々と横須賀や横浜、千葉に入ってくるかと思いますが、その外国艦船の乗組員が市民と歓談する機会があるなどの情報はありますか。

市長

そのような情報は、いまのところありません。

記者

今回、市の立ち入りも検討するということですが、国に対しても、従前より、立ち入り調査の要請を行い、すぐに対応すると回答もありました。現在、国からいつ立ち入り調査を行うなどの情報はありますか。

市長

そのような情報はありません。

記者

本日午後、それについても確認されるのでしょうか。

市長

市の立ち入り調査について、口頭で申し入れる際にお話しいただけるかと思います。

記者

仮に国の立ち入り調査の日程が決まっていたら、市も同行したいと要望するお考えでしょうか。

市長

市としては、フィルターを設置した後に立ち入り調査をしたいと考えています。

記者

フィルター設置前の現状調査について、市の立ち入り調査は行わないということでしょうか。

市長

横須賀市には、科学的な知見も技術もないため、国に責任を持って調査していただくということが筋であると思っています。ただ、フィルター設置後の水の状態については、一緒に取水させてもらうということを要望させていただきます。

記者

立ち入り調査の際、水以外で調査したいという場所がありますか。

市長

私には科学的知見はありませんし、ラティ少将からはさまざまな話は聞いているので必要ないと思っています。